



まつぼっくり

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

児童を主語にした活動

本校には、7つの委員会があります。それぞれが日々の活動をがんばっています。しかし、忘れてしまい活動しないこともあります。児童集会は月に1回ぐらいあります。そこでは、それぞれの委員会の活動内容のお知らせや、より良い学校づくりのためのお願いがあります。今年度その様子を見せてもらってきましたが、誉めるところがたくさんあります。「開始時刻前に全児童が体育館に集合する。」



委員会の発表

「発表する委員会の児童の声が大きく聞き取りやすい。」「全児童がしっかり聞く。」

「クイズなどの時の反応がよい。」「感想など、どの学年も堂々と言える子がいる。」見ていてとても清々しくなります。私が小学生の時のことを考えるとできてなかつたなあと反省します。もちろん日頃の担当職員の指導のたまものだと思います。そしてなりより、子どもたちの意識や素直さです。相手のことを思って発表する。相手のことを思って感想を述べる。この様なことが普通にできる学校は、生徒指導面での問題も少ないし、学力も付

いてきます。日々の何気ないことを普通にやり続けます。1日にやることは小さいことですが、ちりも積もれば山となる、継続は力なり、そうです、大きな力になっていきます。「少しずつ少しずつそれが大きい」のです。大きなことを一挙にやろうなんてなかなかできません。日々少しずつ継続し、時間をかけ成し遂げることが大切だと思います。

私は、お笑いが好きです。昨年末のM-1グランプリの優勝者は「たくろう」でした。リングアナウンサーとビバリーヒルズのネタで見事の優勝です。私のツボにはまり、おもしろくてほぼ毎日見ています。何回見ても笑ってしまいます。たかが漫才ですがされど漫才です。人に笑いを届ける、すばらしいことだと思います。「たくろう」の評価についてミルクボーイの駒場さんが、「7年間苦労して木村君と赤木君とで、赤木君の挙動不審のキャラを意味のあるものにした。」と誉めていました。誉めることができるのは、



委員会の発表



感想発表

その努力を見ていたからです。私たちも教師として子どもを誉めるためには、子どもの言動をしっかり見ている必要があります。

このことから学べることは、諦めないこと・継続すること・くさらないこと・負けないこと・誠実に努力し続けることなどがあると思われます。三角小学校の子どもたちや職員（もちろん校長も）が、この様な気持ちや謙虚さを持って、さらに成長していくこと・させていくことを実践していきたいものです。

今年度も残すところ1ヶ月半、今年度のまとめを「子どもを主語」にして、しっかりやっていきます。



感想発表